

令和6年3月28日

令和5年度 学校関係者評価・第三者評価 報告書

奈良学園幼稚園

本年度の学校関係者評価・第三者評価の機会を次のように複数回設ける。

I 学校関係者評価・第三者評価 委員会（幼小中高合同）

- ①令和5年 11月20日（月） 13:30～15:00
- ②令和6年 3月 8日（金） 10:00～12:00

II PTA 関係者による学校関係者評価委員会

- ① 令和5年 6月15日（木） 10:00～11:30（幼小中高合同）
- ②令和5年 11月15日（水） 10:00～12:30（幼稚園）
- ③令和6年 2月28日（水） 11:00～12:30（幼稚園）

それぞれにいただいた評価を次にまとめ、報告する。

I 学校関係者評価・第三者評価委員会

1. (1) 日時：令和5年11月20日（月） 13:30～15:00

はじめに、本日の予定を確認後、小学校の総合的な学習の時間（広島宿泊学習の振り返りの様子）の見学、M4 学年（中学2年）の英語の授業後を指導いただいた。

- (2) 評価者：前田 康二（奈良教育大学 教職大学院 教授）
- (3) 出席者：安井教育総括監、兼中学校・高等学校長、梅田小学校長、榎幼稚園園長
立花中学校教頭、日比小学校教頭、吉岡事務長
三笠高等学校教頭（司会）、岡井小学校教頭（記録）

- (4) 幼小中高の取り組みについて進捗状況の報告及び第三者評価者としての評価

① 参観授業の感想

M4（中学2年）：Martin Luther King Jr.のスピーチを中学生向けに合わせた内容にして使われていたのは、中学生が暗唱したり勉強したりするのに良いレベルだと感じた。発音練習を一文やワンフレーズごとに丁寧に指導されていたことも良かった。反復練習は大切ではあるが飽きがききしてしまうところがある。参観授業では、飽きがこないように活動されていて良かった。

M1（小学5年）：子どもたちが詳細に記録したことや体験したことにもとづいた活動をまとめていたので、具体的でかつ見学した時の気持ちリアルに表現されていて良かった。オンラインで事前に学習できていることは、とても効果的だと感じた。

自分のしたことや感じたことを推敲して書くことで思考も深まっていくことも感じられた。

②各校種（幼稚園、小学校、中学校・高等学校）からの報告

【幼稚園】：園で行う体づくり、マーチング活動、日本や外国の文化を学んでいる（漢詩の素読や英語活動）こと、豊かな自然（棚田や芝生のグラウンドなど）で五感を使った活動、異年齢の活動などについて説明を行う。

保護者に園の様子をより知ってもらえるように今年度よりブログだけでなく保護者ページに写真を掲載したり、玄関にも掲示したりするようにしている。

【小学校】：小学校が現在取り組んでいるユネスコスクール申請に向けて今年度どのように進めてきたかを説明する。

ユネスコスクールへの取り組みを通して、中学校以降の探求的な学びを進めていく基盤となる体験や経験を積み、その中で身につけられる資質能力をつけさせておくことで中学校以降の力をより自立的に発揮できるようにすることと、そして子どもたちが能動的に学ぶことへの価値観を自分たちの中に位置づけていけるようにしていきたい。

【中 高】：4年前から行っている探求学習について説明をする。

答えが一つでない課題に対して挑戦して、調べたりデータを集めたりしながら最適解に落とし込んでいく活動を行っている。間違いや失敗をおそれずに考える過程の中で学ぶことの大切さに気づかせていきたい。また、探求学習で学んだことを教科学習にフィードバックしていけるようになっていくようになれば良いと考えて進めている。

③評価者より

○探究力を育むことが幼稚園から高校の取り組みが系統立っていることが良く分かった。

○子どもたちの学びを考えたとき、異学年や異校種の交流はとても大切である。年少者にとっては将来の目標やゴールがイメージしやすくなり長期的な動機付けにつながる。また年長者にとっても責任をもって何かをやることで責任感ややりがいを感じられるようになる。そのような活動が随所で行われていることはとても良い。交流の時間を調整するのは難しいと思うが続けられるといいとも思う。

④その他 次回は来年2月末から3月初めに1年間の教育活動について意見をいただく。

2. (1) 日時：令和6年3月8日（金） 10：00～12：00

はじめに、本日の予定を確認後、幼稚園の保育の様子を、その後PI学年（小学1年）の英語の授業を参観後、M1（小学5年）とM2（小学6年）の英語のスピーチ（録画）を見ていただき、ご指導いただいた。

(2) 評価者：前田 康二（奈良教育大学 教職大学院 教授）

(3) 出席者：安井教育総括監、兼中学校・高等学校長、梅田小学校長、榎幼稚園園長
立花中学校教頭、日比小学校教頭、吉岡事務長
三笠高等学校教頭（司会）、岡井小学校教頭（記録）

(4) 幼小中高の取り組みについて進捗状況の報告及び第三者評価者としての評価

①参観の感想

- 【幼稚園】：・園庭で園児がのびのびと活動していて良かった。
- ・工作も上手でハサミやのりも上手に使えていた。
 - ・見学に来た先生たちに園児がとても社交的な様子を見て、普段から小中高の先生が園児に関わりを持たれていることが良く分かった。
- 【小学校】：・1年生の授業で音から英語をとらえるのはとてもよい。
- ・英語表現の音と意味を体で表現しながら覚えるのはとてもよい。
 - ・身体表現だけで終わっている児童がいたので、先生（音声）に続けて声に出すとさらに効果的である。

②各校種（幼稚園、小学校、中学校・高等学校）からの報告

各校種、2学期の保護者アンケート結果及び分掌・委員会の年間総括より報告を行う。

- 【幼稚園】：・保護者アンケート結果をみると概ね良い評価をしていただけた。
- ・小学校との連携において、コロナで行えていなかった幼小の交流が行えるようになった。また中高とはハロウィンパーティーや自然再生研究会による出前授業など様々活動ができた。
 - ・情報提供について、保護者に園の様子を担任からも伝えているがブログや奈良学園幼稚園日記でも伝えたことはアンケート結果からも評価されていたように思う。さらに子供の様子を伝えられるように個人懇談も3学期急遽実施した。来年度は個人懇談を毎学期実施（従来は2学期のみ）の方向で検討している。
 - ・1月1日に起こった能登地震を受けて避難訓練をし、園児に安全についての教育を行った。
 - ・2学期は行事が多く、行事に追われる保育となっているところがあるので行事について精選や順番を変えるなど検討していく予定。
 - ・共働きが増えていることを受け、預かり保育や担任から子どもたちの普段の様子を伝える方法についても検討が必要になっている。
 - ・保護者が育児についての悩みをもっと相談しやすい教育相談体制を整えていく必要がある。
 - ・園児募集に向けて広報活動を積極的に行っていく。
- 【小学校】：・志願者増に向けた広報活動として、webの活用や学校に足を運んでもらえるような有効な企画について効果検証を行いながら進めてきた結果、内部志願率や一般志願者数が微増となった。
- ・縦割り活動で主体的な活動が実践できる機会が確保できた。またユネスコスクールチャレンジ校としての取り組みにおいて、ユネスコ委員会を毎月行ってそれぞれの学年の活動の柱を検討し、ストーリーマップが作成できた。これらのことを通じて教員の指導の方向性が整った。次年度はストーリーマップをもとに実践ともに教員の指導力向上も求めていく。
 - ・デジタルシティズンシップ教育にもとづいた情報モラル教育を実践しているが、児

童や教員だけでなく、保護者にも浸透させる必要がある。

- ・研究研修において、年間で3回の授業交流と2回の全体研を行うことができた。また、コロナ前のように事後研も参加型の研修を行えた。
- ・夏季休業中に研修 DAY を設け、入試問題の解説、特別支援教育、デジタルシティズンシップ教育、いじめ研修などを小学校全体で行えた。
- ・保護者アンケート結果をみると概ね良い評価をしていただけた。アンケート結果を受けて保護者に日頃の児童の学習の様子を見てもらえるように、来年度は公開授業 DAY（仮称）を設ける予定。
- ・行事ごとに終了後にアンケートを行い、アンケート結果をもとに行事を進めていることで、保護者も協力的にアンケートに答えてもらえるようにしていきたい。

【中 高】：・中高スローガンの「子どもの伸び率日本一」が教員だけでなく生徒にも浸透してきている。

- ・個別指導塾と連携した放課後自習室「尚志館」において、月一回学習カルテを保護者にフィードバックしたり、尚志館の運営管理者が教員にも生徒の学習状況を報告したりすることで、学習状況が大きく改善されている。
- ・尚志館のチューターには本校の卒業生が8名在籍している。本校のカリキュラムや行事を知っている卒業生が学習指導や進路相談も行ってくれている。
- ・大学探訪を実施して、志望大学にあこがれを持つだけでなく、大学でどんな研究ができるのかを OB や OG に個別に対応してくれることでより大学に関心を持てる機会となった。今年度は初めて医学部探訪も行った。
- ・保護者に対して進路について話を今までは予備校の先生に行ってもらっていたが、今年度より進路指導部が中心となって行うようになった。
- ・進路講演会を生徒と保護者それぞれにあった内容に変え、別々に実施することを検討している。
- ・進路指導室が整備され、生徒が資料を見に来たり生徒だけでなく保護者も進路相談をしに来たりできるようになった。大型モニターも設置され、進路指導室でオンライン研修も受けられるようになった。
- ・生徒指導における基本的な対応の仕方や手順、生徒理解について教員で共通理解をする機会を設けた。指導と支援の観点で対応できるようにしている。
- ・紙ベース広告から web 媒体広告にして3年目を迎える。今年度は受験者が大幅増になった結果より本校に対する関心や期待感が高まってきたことが感じられた。
- ・ターム留学（高1）の参加生徒はモチベーションが高く、大学受験でもよい成果をあげている。来年度はオプションで中3・高1を対象にシンガポール研修を計画している。
- ・探求学習は4年になるが、卒業生が大学の研究室やゼミでリーダーシップを発揮してくれたり多様な意見が出してムードを高めてくれたりしている。ただ、ルーブリック評価の活用に課題がある。

・いじめ対応について、集約会議（年2回のいじめアンケート後及び週1回の生徒指導部会）をしっかりと行って解決に向けて進められるようにしている。

③評価者より

- アンケート結果を保護者にフィードバックをすることで保護者の安心感につながるのと、とてもよいと思う。
- 各校種からの活動が保護者アンケートの結果から見ても充実した活動になっていることが分かった。
- 尚志館の取り組みにおいて、大学でも生徒と先生の距離が近い方がモチベーションが上がるという話を聞くので、卒業生がチューターとして対応してくれるのはとても良いと思う。
- 5, 6年生の英語のスピーチを見て、先日(2/14)見せてもらった中学生の英語のプレゼンが小学校からの積み重ねであるということを改めて感じた。小学校でしっかりした教育を行っているので、中高でさらに力をつけていることが感じられた。
- 小学生にも中学生の英語のプレゼンを見せることで小学生の良いモデルとなり、子どもにとって良い手本になると思う。そして小学校の教育活動もさらに良くなると思う。

II PTA 関係者による学校関係者評価委員会

1. (1) 日 時：令和5年 6月15日(木) 10:00~11:30
- (2) 評 価 者：蜂須賀雅代(登翔会会長)
佐々木雅代(高等学校副会長)、有馬由喜(中学校副会長)
太田亜賀沙(小学校副会長)、黒田衣美子(幼稚園副会長)
- (3) 学校園参加者：安井幸至(総括監兼中高校長)、梅田真寿美(小校長)、槇 康二(幼稚園長)、
三笥康之(高等学校教頭)、立花正幸(中学校教頭)、岡井幸紀(小学校教頭)
日比 忍(小学校教頭)
- (4) 協 議 内 容：1. 登翔会(PTA)役員へ学校関係者評価委員として委嘱をお願いする。
2. 今年度の各校園の中期計画をもとに、学校経営方針と核となる取り組みについて説明する。各校種からは以下の重点内容を中心に説明する。
- (5) 各校種からの説明
【幼稚園】・小学校との連携
 - ・昨年度の文部科学表彰された内容の継続
 - ・地域等との連携について
 - ・預かり保育の充実、課外活動の充実
→預かり保育のニーズ、小学校で行われているならとみアフタースクールとの連携
 - ・園児募集について
→園児募集につながるように、幼稚園の良さをより多くの人に発信できるかを保護者の立場からの意見もいただきたい。

【小学校】・「確かな基礎学力と学びに向かう力」を重視したい。

- ・体力の向上についてもしっかりと取り組みたい。
→数年来の取り組みが、授業に向かう姿勢に変化が現れている。
- ・個別最適化した場の構築を図る。
- ・ユネスコスクール加盟への申請を行っている。
→1年間の審査期間を経て決定。
- ・系統的な探究活動の実施計画の作成・試行。
- ・基礎学力を育てる具体的な方策→主体的な学習の必要性
- ・道徳に対する取り組みの充実。
- ・年間を通して、家庭に対して児童の学習活動の様子だけでなく、学習のねらいなどを通信等で発信していく。
- ・進路指導の充実
→内部進学が近づく M1,M2 での内容、プライマリーからの積み上げの必要性等
- ・子供が主体的に活動できるように、さまざまな学習の方向性を掴み、そこへ向かっていく必要性を感じさせたい。
- ・広報活動も含めて、紙媒体のみではなく、Web 媒体を利用した有効な方法で学校情報の発信していけるようにする。

【中学校・高等学校】

- ・尚志館の活用について→運営指導員の変更及び教員がチューターとして指導
- ・道徳教育・特別活動の位置づけにおいて中学年代での取り組みを充実させる。
- ・AUS 語学研修について
- ・総合的な学習時間の充実
→探究活動の体制を整備し、活動内容が充実してきている。活発的な活動の成果、座学では見せない姿、新たな一面が発掘されることとなっている。
- ・人権教育において、学年に推進委員を置くことで幅広い取り組みに繋がっている
- ・生徒指導について、学習に集中しづらい生徒への配慮や事象発覚時には指導の早期対応。いじめに関するアンケート、気づきシートの活用。
- ・進路指導について、数値(中期計画に表記)に表した具体的な取り組みを行っていく。
昨年度より大学探訪の再開し、本年度は医学部の計画を立てている。
難関大学への進学実績につなげる。
- ・特別支援教育について、発達にアンバランスのある生徒への配慮。担任、学年が中心で対応を行っていくが、教育相談や SC も活用しながら進めていく。
- ・さらによい学校を作っていくために未来戦略会議を立ち上げ検討を行う。
- ・生徒募集について、SNS を通じた広報の充実を図る。昨年度より受験料の変更し、「とりあえず受験」を無くす。
- ・施設、設備の改善について登翔会からの協力に感謝している。

(6) 保護者からの意見【幼稚園】○教員の充実をお願いしたい。

○幼稚園通用門のセキュリティーについて短時間ではあるが不十分なことがあるので改善をしてほしい。

【小学校】○体カづくりの取り組みについて効果が出ていることが聞けて良かった。

【中 高】○未来戦略会議期待している。

【全体に対して】

○正門前の卒業記念品のモニターについて、今以上に有効的に活用してほしい。

○児童、生徒が間違わないように小学校職員室前のトイレが職員や来客者専用であることが分かりやすい表示にするか、全体への指導を行ってほしい。

(7) そ の 他 ・MI (小5) 以上で使用するリュックサックの修正について

→修正した生地や仕様は、好評であった。

・9月末実施の合同運動会について実施形態等について相談。

2. (1) 日 時：令和5年11月15日(水) 10:00~12:30

(2) 評 価 者：黒田衣美子(登翔会幼稚園副会長)、荒木冴子(同書記)

(3) 学校園参加者：楨 康二(幼稚園園長)

(4) 評 価 結 果：午前10時より約30分間、園内の保育の様子を視察していただいた。その後本園の取組に対するご意見を求めた。

(5) 保護者からの意見：○保育の様子を見て

・一生懸命遊び、活動している姿は、ただただかわいいと感じる。

・園児が自由に伸び伸びと遊んでいる感じが印象に残った。

・「体育の先生と遊ぼう」の様子を見たが、年中組の子どもたちがサッカーを楽しんでいて、年中なりにゲームまでできるようになっていることに感心した。家でも子どもが「サッカーが好き」と言っている。

○幼稚園の取組や行事について

・マーチング活動は、毎日の練習で「疲れた」と子どもが言っている日もあるが「みんなで作るのが楽しい」と言って一生懸命取り組んでいる。運動会の発表を見て感動した。これからもこの活動を大切にしていってほしい。

・運動会は祖父母も見ることができて、とても喜んでいて。一方で、観覧優先席の運用については、工夫していただけるとありがたい。

○日頃の園生活等について

・先生方ががんばってくださっていることを、ありがたく感じている。若い先生もがんばってくれていて、応援したい気持ちになる。

・アンケート結果で、園内での情報提供などの項目が他より低い点については、預かり保育の子が増えて、コールを直接聞く保護者が減ってしまったことも一

困ではないか。登園時はあわただしく、コールの後が担任の先生と一番ゆっくり話ができる機会になっている。預かり保育を利用している保護者も、そのような機会が持てると良いと思う。

・園長ブログや「ならがくようちえん日記」を更新してもらっているおかげで、普段の様子がわかると好評である。コールなどでその日取り組んだことを知らせてもらっているが、写真で見てわかることも多い。また「ならがくようちえん日記」を玄関に掲示してもらっているのので、登降園時に見ることができて喜んでいる。

・給食がとてもおいしいと、子どもからは好評である。一度食べてみたいと思っている保護者もいると思うので、在園児の保護者対象に給食試食会をしてみてもどうか。

○その他

・預かり保育のニーズが年々増えており、充実を願う保護者の声は多い。

・課外講座（ならとみアフタースクール）については、年中組にも広がって喜んでいる保護者が多い。ただ、講座の料金以外に必要な費用などがあれば、募集する際にそのような情報をあらかじめ伝えておいてもらえればありがたい。

・とても良い幼稚園だと思っているので、園児がたくさんいて、にぎやかな活気が、これからも続いて欲しい。近くにマンションがたくさんあり、小さいお子さんもそれなりの数が住んでおられると思うので、保護者も協力できることがあればと思う。在園児の保護者が、幼稚園の良さを未就園児の親に直接伝える場を設けるなど、協力してくれる保護者はいると思う。

3. (1) 日 時：令和6年2月28日（水） 11：00～12：30

(2) 評価者：黒田衣美子（登翔会幼稚園副会長）、荒木冴子（同書記）

(3) 学校園参加者：榎 康二（幼稚園園長）

(4) 評価結果：2学期学校評価アンケートの考察と学校評価の項目をもとに、今年度の事業を振り返り、ご意見をいただいた。

(5) 保護者からの意見：【大項目】Ⅰ 教育活動に関する項目

【中項目】(1) 教育目標・教育計画 (2) 保育指導

・子どもが幼稚園で楽しく過ごしている。そのことが一番うれしい。

【中項目】(2) 研究・研修

・研修と呼べるかは分からないが、園児が鑑賞している音楽会に保護者が参加する機会があっても良いのではないかと。

・研修を計画していただくのであれば、働く方が増えて、集まりにくいかもしれないが、堅い内容のものより、集まって楽しくお話できるような内容が良いと思う。

【中項目】(3) 道徳・特別活動

- ・園の行事には満足している。きらきら発表会も楽しかった。知っている子も多いので、できれば同じ学年の発表（隣のクラス）は見たかった。学年発表になったとしても、それはそれで良いと思う。
- ・きらきら発表会の衣装について、学年によっては準備の方法や準備期間に課題があったように思われる。早めに伝えておいていただくなど、配慮をお願いしたい。

【大項目】Ⅱ 学校経営に関するもの

【中項目】（３）安全管理

- ・避難訓練など、日頃から備えていただくことは大切だと思う。
- ・大きな地震が発生した時、親はどのような対応を取ったらよいのか、考えさせられた。

【中項目】（４）保健管理

- ・数日休みが続いた時に担任から連絡をいただくとホッとします。
- ・マスクの着用が減った。咳が出るときはマスクを着けさせる等、親の配慮や協力も必要。先生からも声をかけていただくとありがたい。

【中項目】（５）地域等との連携

- ・情報提供の機会として１学期に懇談をすることは、直接担任から年度初めの様子が聞けるので良いと思う。２学期に続いて３学期も懇談が入ったが、日数が近いので、３学期は希望制にしても良いのではないかと思う。
- ・学年だよりなどのお便りが以前より減った印象はあるが、「ならがくようちえん日記」で様子を知ることが増えたので、お便りの回数を増やしてほしいとは考えていない。

【中項目】（６）施設・設備

- ・幼稚園の門にインターホンとオートロックを新設いただいたのは良かった。安心できる。

【中項目】園児募集・広報

- ・幼稚園を敬遠する理由の一つとして、役員や学級委員を負担に感じると考える方がいらっしやると聞く。現在はずいぶん負担が減り、お勤めの方でもしていただけるような仕事内容になっている。それを伝えることができるように、役員会でも提起していきたい